

Estuary 044



エスチュアリ

～いしかり砂丘の風資料館だより～

☆エスチュアリ…「河口」の意味。北海道一の大河、石狩川と日本海とが出会う場所、それが石狩です。



ホネボラ,イルカを発掘!

2008年6月、体長2mのイシイルカの死骸が石狩浜に漂着しました。北海道大学による解剖調査の後、骨格標本を作るために資料館が譲り受け、肉を腐らせて除去するため、砂中に埋めました。それから3年――。

2011年5月、とうとう発掘する時が来ました。作業に参加したのは、4月に結成したばかりの資料館ボランティア「ホネボラ」の8人。しかし、3年の間に埋設地点の目印が失われていたため、正確な地点がわからなくなっていました。

た！ さんざん穴を掘りましたが骨を見つけることはできませんでした…。

かといって、あきらめるわけにはいきません。7月、同メンバーで再度挑戦。3年前の写真から正確な地点を割り出し、綿密で効率的な発掘計画を立てて臨みました。その甲斐あって、作業開始後2時間で掘り当てることができました！ 3年の間にすっかり肉はなくなり、きれいに骨だけになっていました。

しかし、骨が見つかって終わりではありません。イルカの



骨は、同じような形の骨がたくさんあります。例えば背骨などは尾まで含めると50個ほどの椎骨できています。それらを1つ1つ、砂中から取り上げては番号を付けて袋にしまっていく作業が夕方まで続き、やっと資料館に運び入れました。これからホネボラのみなさんによって、洗浄、骨格の組立作業が行なわれていく予定です。◆

(志賀健司 しがけんじ)

ホネボラ募集中!!!

げんじつ 幻日を見て現実を知る

あれは5月27日のこと。一日の勤務を終え、バスに乗るために資料館を出ました。何気なく石狩浜の方向を見てみると、夕焼けにはまだ早いのに、太陽の右側の雲の一部分が紅く、そしてその横は白っぽいような青っぽいような（今、思い出しながら書いていてもうまく文字に表せないのがもどかしいです）縦にたらしめた帯みたいに染まっていた。何とも不思議なものを見たと思ったので、この思いを誰かと分かち合いたくなり、慌てて資料館に戻りまだお仕事中だった学芸員のSさんにも見てもらいました。バスの中からも、これは一日仕事を頑張ったご褒美だな、と自己満足に浸りながらしばらく眺めていました。

次の日、Sさんがあれは「幻日」という気象現象だったこと、更に太陽の上方向まで見ると「環天頂アーチ」も出ていたと教えてくれました。幻日と環天頂アーチ、2つの現象が起きていたなんて！ 知らなかった現象とはいえ、1つを見逃した後悔は大きなものでした。目の前の出来事に目を奪われ周りを注意深く見渡すのを忘れて

しまった、観察力がまだまだ足りないと、幻日を見て現実を知ることとなりました。

ところで5月27日は、函館市内で午前中「環水平アーチ」が見られたと朝日新聞に載っていました。この日は、様々な気象現象が観察できる条件が揃っていたんですね。◆

（倉 雅子 くらまさこ）

このとき頭上↑には「環天頂アーチ」が…（→4ページ）



石狩浜に漂着するウオツカ瓶

春先、石狩浜を中心に、多くのガラス瓶が漂着します。なかでも目立つのは栄養ドリンクの瓶と酒瓶です。栄養ドリンク瓶の方はラベルが無いのはつきりと分かりませんが、細いものが多く、日本ではあまり見かけないタイプのもので、多分、韓国製で漁船員が捨てたと思われる。

酒瓶で多いのがウオツカの瓶です。瓶類では日本酒、焼酎、ワインなど日本製も無いわけではありませんが、ウオツカ瓶が一番のようロシア船員が飲んで捨てたのでしよう。数年以前は、それほど目立つ存在ではありましたが、最近では個性的な形の瓶も多く、ラベルもカラフルなものも多く目立ちます。少なくとも十種類以上はあるでしょう。しかも「アムール」「バイカル」「ハバロフ」など聞き覚えのある地名や有名な人物の名前を冠したものもあり、極東産ウオツカが増えているようです。

このほかに北欧産のウオツカ瓶も2、3種見かけます。これらは日本で入手できないわけではありませんが、漂着時期から考えて流出元はロシア船なのでしよう。瓶の中には少し中身の残ったものもみられます。

ところで、これまで浅はかにもロシア語が書いていけば自動的にウオツカ瓶と思っていました。中には日本でも良くある健康・強壮酒の類で「バリザム」という薬草酒の瓶も含まれているようです。日本ではあまり知られていませんが、ロシア伝統のお酒で、極東ウーシリ産のものが有名だそうです。「バリザム」の作り方はウオツカに薬草を漬けたものが多く、決して弱い酒ではありません。また、飲み方もウオツカに割って飲むのがロシアでは一般的だそうです。これだとウオツカにウ



オツカを割るようなもので、健康酒も台無しのように思われますがどうなのでしょう。◆

（石橋孝夫

いしばしたかお）

7月末～11月の講座・展示①

テーマ展

子母澤寛と大道書房

—石狩市民図書館貴重書コレクションから—

子母澤寛と戸田城聖、2人の厚田出身者の大道書房の出版物を紹介します。

- 日時 7月9(土)～7月31日(日)
- 場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料が必要です。

7月
まで

体験講座

化石のレプリカをつくる

アンモナイトや石狩の貝化石から型取りして、本物そっくりのレプリカを作ります。ラベルを付けて展示したら、自分の部屋がミュージアムに!

- 日時 8月13日(土) 13:00～17:00
- 場所 ★こども未来館あいぼーと(石狩市花川北7条1丁目)
- 対象 小学4年生～大人
- 定員 15人(先着順)
- 参加料 500円(材料費)
- 申込 7/1(金)～8/10(水)の間に電話で資料館(0133-62-3711)へ

8月
開催

今年
は
花川
地区
で
開催!

体験講座(全3回)

縄文土器復元講座

縄文人は縄文土器をどのようにつくったのでしょうか。基礎からじっくりお教えします。

- 日時 ①7月30日(土) 09:30～16:00
②8月6日(土) 09:30～16:00
③野焼き 9月を予定
- 場所 ★石狩市公民館
- 対象 小学生以上

7月
から

※参加費は
終了しました

体験講座(全2回)

フライドチキン骨格標本をつくる

鳥の骨には恐竜との共通点がいっぱい。チキンを食べる翼や脚の部分骨格標本を作れば、1億年の進化の歴史が見えてくる!

- 日時 ①処理編: 9月3日(土) 12:00～16:00
②組立編: 9月10日(土) 13:00～16:00
- 場所 いしかり砂丘の風資料館
- 対象 小学4年生～大人
- 定員 10人(先着順)
- 参加料 無料
- 持ち物 フライドチキン(骨付き) 1ピース
- 申込 8/3(水)～8/31(水)の間に電話で資料館(0133-62-3711)へ

9月
開始

9月
開催

テーマ展

石狩の遺跡と縄文文化

石狩市内にはどんな遺跡が発見されているのか。代表的な遺跡を紹介し、発見された資料を展示します。

- 日時 9月7日(水)～10月24日(月)
- 場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料が必要です。



風と匂いで始まる一日

私が資料館で勤務するようになってから3ヶ月が経ちました。

資料館は石狩湾に面しているので、風に乗っていつも海の匂いがします。同じ石狩市に住んでいてもなかなか海の匂いは感じられません。勤務し始めた頃は冷たく突き刺すような風だったのですが、暖かくなるにつれて風の当たる感じが柔らかかったり、少しずつ匂いが変わったりします。最近では海開きもあったせいでしょか、バーベキューの美味しい匂いも一緒に運んでくれます

(海辺で海水浴や散歩、バーベキューなどを楽しみつつ、資料館へと足を運んで頂けると嬉しいです!)。また、少し湿っぽい風の日や爽やかな風の日など、その日の天気によって風の匂いや肌への感じ方が違うのです。当たり前のことかもしれませんが、恥ずかしながら何年も石狩に住んでいて海辺の風や匂いの違いに気付いたのは最近のことです。

最近では朝、資料館に着くと空を見ながら深呼吸をします。今日はどんな風と匂いで、どんなお客様との出会いがあるかなと楽しみにしながら一日が始まります。◆

(木戸奈央子 きどなおこ)

7月末～11月の講座・展示

テーマ展@さっぽろ

石狩海辺学
～海と陸との出会い～

海辺は、海と陸との境界線。そこにはいろいろな“もの”が集まってきます。石狩浜にやってきたもの、見られるものを、標本、資料、写真で展示！

- 日時 10月29日(土)～11月3日(木・祝)
10:00～19:00
- 場所 ★紀伊國屋書店札幌本店
(JR札幌駅西口)2階 ギャラリー
- ※入場無料

10月
開始

トークイベント@さっぽろ

石狩海辺学
～海と陸との出会い～

海辺は、海と陸との境界線。そこではいろいろな“こと”が起きます。海辺で調査・研究してきた学芸員たちが、札幌からもっとも近い海辺の知られざる姿を紹介します！

- 日時 11月3日(木・祝) 夕方
- 場所 ★紀伊國屋書店札幌本店
(JR札幌駅西口)1階 インナーガーデン
- 参加料 無料
- 申込 不要(※座席数には限りがあります)

11月
開催

野外講座

石狩ビーチコーマーズ/秋の漂着物

秋の石狩浜には、暖流によって南の海からさまざまなものが流れてきます。ヤシの実やアオイガイが見つかるかも！

- 日時 10月16日(日) 09:00～13:00
- 場所 砂丘の風資料館～石狩浜
- 対象 小学4年生～大人
(小学生は保護者同伴で)
- 定員 20人(先着順)
- 参加料 無料
- 持ち物 長靴、防寒着、ビニール袋など
- 申込 10月初めから受付開始予定

10月
開催

連続講座(全3回)

石狩大学博物学部

石狩の自然や歴史の基礎知識・最新の研究成果を、各分野の学芸員が解説します。1回だけの受講もOK！

- 日時 ①11月12日(土) 13:00～15:00
②11月19日(土) " "
③11月26日(土) " "
- 場所 石狩市民図書館 視聴覚ホール
- 定員 各回40人(先着順)
- 参加料 無料
- 申込 10月から受付開始予定

11月
開催

編集後記

幻日に環天頂アーク、石狩湾の上位曇気楼と、めずらしい大気光学現象を続けて見ることができました。空や海を見ていると良いことがありますよ。(け)



この弧↑が虹色に見える

■石狩市広報に連載「いしかり博物誌」

- ☞第113回：100年前の万国博覧会(2011年5月号)
- ☞第114回：石狩市の大地震、津波記録(2011年7月号)



5月27日の環天頂アーク(→2ページ)

いしかり砂丘の風資料館

- 開館時間 午前9時30分～午後5時00分
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始
- 入館料 300円(中学生以下は無料)、
団体料金240円(15名以上)
- 交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、
「石狩温泉」下車、徒歩1分
(石狩温泉「番屋の湯」となり)

エスチユアリ No.44

2011年7月25日 発行

いしかり砂丘の風資料館
〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4
TEL/FAX: 0133-62-3711
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/